

2023年度 病院長よりご挨拶

公立久米島病院長 並木 宏文

日頃より公立久米島病院にご協力いただきまして誠にありがとうございます。2023年4月となり、新年度を迎えましたため、改めてご挨拶を申し上げます。

世界を席卷していましたコロナウイルス感染への向き合い方にも変化があり、皆様の生活にも変化があったのではないのでしょうか。病院では、さまざまな状況を考えながら、慎重に感染対策の制限を緩めているところです。

新年度になり、病院には新しく入職された方がおります。この記事を見るところには、皆様にお披露目され、皆様と共に島の生活を始めております。皆様にあっては、これまで通り、島での生活を歓迎していただけますと幸いです。

久米島病院には、2023年3月で退職した医師、看護師が複数おりました。島の医療体制に貢献してくれた方々が島を離れることに寂しさもありますが、

当院に限らず、医療業界においては、数ヶ月、数年で職員の変わることがよくあります。そうした事情はありますが、皆様にとって大切なインフラである久米島病院の機能が低下し、医療不安とならないよう、これまで以上に皆様へ向けた努力をしていく所存です。なお、皆様の安心、安全に向けた病院の体制、方針につきまして、病院ホームページに掲載しております（例として、個人情報保護指針、院内感染対策指針、医療安全管理指針、などを追加しています）。

最後となりますが、お知らせです。2023年2月より患者様用の病院駐車場を拡大しました。駐車スペースに関して、皆様から多くの声をいただき、2022年度内での実現を目標としておりました。これからも皆様からの声を反映できますよう、邁進して参ります。どうぞよろしく願い申し上げます。

『『わかった!』を大切に ～学習障害を中心に～』

公立久米島病院
小児科 渡邊 幸

新年度のスタートはワクワクドキドキですね。

さて、子どもたちにとって「わかった」という体験はとても大きなエネルギーになります。逆に「わからない」ことが続くと意欲の低下につながります。

理解力の成長には個人差がありますが、学習内容は学年で決まっているため、「わからない」にぶつかることは当然あります。つまりいたら、時間をとって学び直し、「わかった!」「できた!」まで体験できることが大切です。

丁寧に学習し直しても理解が深まらない時には、「読み／書き／計算」についての学習障害（LD）の可能性もあります。LDは生まれつきの脳機能の異常で、20人に1人に見られます。学習以外の日常生活では問題がないので、勉強ができないのは「努力不足」と思われてしまい、気付かれにくいのが特徴です。「わからない」ことが続くと意欲だけでなく自信の低下にもつながるため、なるべく低学年のうちに気づき、手立てができるとうれしいです。

<読字障害>

文字を見て音に変換する（音韻処理）ことが苦手なので、文字を読むのがやっとなで、文章の内容を理解するところまで辿り着きません。耳から聞く内容は理解できているのに、問題を「読んで解く」ことができないために、テストで問題が解けず良い結果が出せません。

<計算障害>

数字や記号を認識することが困難で、単純な計算でも時間がかかり、説明してもなかなか理解できません。数の大小や繰り上がり繰り下がり、なども理解が難しいため学年が上がるにつれて困難さが増してきます。

LDのお子さんは、苦手なこと（例：見る力）がある反面得意な面（例：聞く力）もあるため、その得意なところを生かした学習方法に切り替える手立てや配慮が有効です。発達検査を受けることで、得意・不得意を知ることができるので、学習のつまずきが大きいと感じるお子さんにはぜひ一度病院や学校で発達検査について相談してみてください。

